

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第4337701号
(P4337701)

(45) 発行日 平成21年9月30日 (2009. 9. 30)

(24) 登録日 平成21年7月10日 (2009. 7. 10)

(51) Int. Cl.

F 1

E O 5 B 65/44 (2006. 01)

E O 5 B 65/44 A

A 4 7 B 1/10 (2006. 01)

A 4 7 B 1/10

A 4 7 B 88/00 (2006. 01)

A 4 7 B 88/00 F

E O 5 C 3/22 (2006. 01)

E O 5 C 3/22

請求項の数 3 (全 15 頁)

(21) 出願番号 特願2004-289436 (P2004-289436)
 (22) 出願日 平成16年9月30日 (2004. 9. 30)
 (65) 公開番号 特開2006-104688 (P2006-104688A)
 (43) 公開日 平成18年4月20日 (2006. 4. 20)
 審査請求日 平成18年3月15日 (2006. 3. 15)

(73) 特許権者 000001351
 コクヨ株式会社
 大阪府大阪市東成区大今里南6丁目1番1号
 (74) 代理人 100085338
 弁理士 赤澤 一博
 (72) 発明者 善田 陽一
 大阪市東成区大今里南6丁目1番1号 コクヨ株式会社内
 (72) 発明者 加藤 善雅
 大阪市東成区大今里南6丁目1番1号 コクヨ株式会社内
 審査官 清藤 弘晃

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 ラッチ装置

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

左右の脚部を連結する中間横架材を有している構造体とこの構造体上に水平にスライド可能に支持された移動体との間の上下の厚み方向に存する隙間にラッチハウジングを介在させ、このラッチハウジングに、当該ラッチハウジングの厚み内に収容され移動体を構造体における前記中間横架材に係止させる場合のみ厚み内から厚み方向に突出するラッチ部材と、前記ラッチハウジングの厚み内に収容され且つその厚み内で水平にスライド動作若しくは旋回動作させることにより操作可能なラッチ解除用レバーと、前記ラッチハウジングの厚み内に収容されて前記ラッチ解除用レバーのレバー操作力を前記ラッチ部材に伝達する伝達部材とを組み込んでなることを特徴とするラッチ装置。

10

【請求項 2】

ラッチハウジングが薄板状のものであり、そのラッチハウジングの厚み方向に設けた貫通孔に少なくともラッチ部材を収容している請求項 1 記載のラッチ装置。

【請求項 3】

ラッチハウジングが移動体に固定され、ラッチ部材が前記中間横架材の外面に当接することによって移動体を係止するものである請求項 1 又は 2 記載のラッチ装置。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、構造体にスライド可能に支持された移動体を所望の位置に好適に停止させ得

20

るようにしたラッチ装置に関するものである。

【背景技術】

【0002】

従来より、構造体に移動体をスライド可能に支持させたものとして、引出しや天板がスライドする天板付き家具等が知られている。

【0003】

この種の天板付き家具に利用されるラッチ装置は、特許文献1に示すように、構造体又は移動体の一方にラッチ爪を設けるとともに、他方のラッチ爪に係合させるべき部位に係合孔や係合凹所を形成し、ラッチ爪を選択的に係合孔や係合凹所に凹凸係合させることによって、天板を構造体に対して所定のスライド位置に係止するようにしている。

10

【0004】

そして、ラッチ解除用レバーは、天板や引出しの前縁側の下面に水平軸回りに取り付けられ、その回動動作を縦横に配した伝達部材を介してラッチ爪に伝達することにより、当該ラッチ爪の解除を行い得るようにしている。

【特許文献1】特開平9-256712号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

ところが、このようなものであると、ラッチ解除用レバーの動作しろが大きい上に、伝達部材やラッチ部材が縦横に立体的に配置されるため、例えば天板付き家具において構造体である天板支持体と移動体である天板との間の僅かな隙間に適用するといった利用の仕方は到底採用し得ないものである。

20

【0006】

本発明は、このような不具合に着目してなされたものであって、構造体と移動体の間に僅かの隙間があればそこに挿入することによって有効に機能させることができるようにした新規有用なラッチ装置を提供することを目的としている。

【課題を解決するための手段】

【0007】

本発明は、かかる目的を達成するために、次のような手段を講じたものである。

【0008】

30

すなわち、本発明のラッチ装置は、左右の脚部を連結する中間横架材を有している構造体とこの構造体上に水平にスライド可能に支持された移動体との間の上下の厚み方向に存する隙間にラッチハウジングを介在させ、このラッチハウジングに、当該ラッチハウジングの厚み内に収容され移動体を構造体における前記中間横架材に係止させる場合のみ厚み内から厚み方向に突出するラッチ部材と、前記ラッチハウジングの厚み内に収容され且つその厚み内で水平にスライド動作若しくは旋回動作させることにより操作可能なラッチ解除用レバーと、前記ラッチハウジングの厚み内に収容されて前記ラッチ解除用レバーのレバー操作力を前記ラッチ部材に伝達する伝達部材とを組み込んでなることを特徴とする。

。

【0009】

40

このようにすれば、構造体と移動体との間の狭小な隙間にラッチハウジングを挿入するだけでラッチ装置を構成できるため、僅かな組み込みスペースさえあれば簡易に採用でき、移動体を有する種々の家具等に好適に適用することができる。

【0010】

ラッチハウジングが薄板状のものである場合には、そのラッチハウジングの厚み方向に設けた貫通孔に少なくともラッチ部材を収容しておくことが望ましい。

【0011】

本発明の好適な実施の形態としては上述の通り、移動体が水平面内をスライド移動し、ラッチ解除用レバーが水平面内をスライド動作若しくは旋回動作するようにしたものが挙げられる。

50

【0012】

構造体に別段の加工等を不要とするためには、ラッチハウジングが移動体に固定され、ラッチ部材が構造体における前記中間横架材の外面に当接することによって移動体を係止するものであることが望ましい。

【発明の効果】

【0013】

本発明は、以上説明した構成であるから、構造体と移動体の間に僅かの隙間があればそこに挿入することによって有効に機能させることができるようにした新規有用なラッチ装置を提供することが可能となる。

【発明を実施するための最良の形態】

10

【0014】

以下、本発明の一実施形態を、図面を参照して説明する。

【0015】

この実施形態のラッチ装置が適用される天板付き家具は、図1～図3に示すように、構造体である天板支持体1に移動体である天板2及び引き出し3を相互に独立してスライド移動し得るように支持させたものである。

【0016】

具体的に説明すると、天板支持体1は、図4及び図5に示すように、左右の脚部1a、1a間を後部横架材11及び中間横架材12で連結し、前横架材に相当する部位を開放した構成からなるもので、脚部1aは一对の支柱13、13間を側部架材14で連結した門形をなす。これら後部横架材11及び側部架材14には長手方向に沿って内側に連続開口する水平溝fを有するフレーム部材F1が、また中間横架材12には長手方向に沿って両側に連続開口する水平溝fを有するフレーム部材F2がそれぞれ用いられている。水平溝fの溝幅fxは、図7等に示すように、フレーム部材F1、F2の内部に形成される中空部の上下内法寸法FXよりも若干幅狭とされ、水平溝fの立壁の内面に後述する固定子たるナット部材8（図18参照）に係止させ得るようにしている。

20

【0017】

天板2は、厚み寸法が10mm程度の薄板状のもので、側部架材14の内側に連続開口する水平溝fに図6に示すように移動子たる可動ローラ20を2つ配し、前記可動ローラ20の支軸に第1可動ブラケット21及び第2可動ブラケット22を取り付けて、これら両可動ブラケット21、22の上方に形成した天板取付面に天板2の中間部及び後縁部を止着している。両可動ブラケット21、22は、その一部に設けた凸部21a、22aを水平溝fの上下両縁間に差し込むことによって天板取付面の水平状態を保持するものである。そして天板2を、図2及び図7に示すように前方にスライド移動して天板支持体1の奥部領域1Bを上方に開放する前方スライド位置2Fと、図1及び図8に示すように後方にスライド移動して前記奥部領域1Bを閉止する後方スライド位置2B（通常使用位置）との間で移動可能としている。その際、前縁側の下面を側部架材14に設けた前縁側支持体である第1固定ローラ23に添接支持させており、図7に示す前方スライド位置2Fと図8に示す後方スライド位置2Bとの間で天板2の前縁側の下面をバックアップしている。また、この天板2は、幅方向中央部の撓みを防止するために、図4に示すように中央部下面を中間横架材12に設けた中間支持体たる第2固定ローラ24に添接支持させており、図9に示す前方スライド位置2Fと図10に示す後方スライド位置2Bとの間で天板2の中央部の下面をバックアップしてその撓みを防止している。

30

40

【0018】

そして、これに伴い天板2に、図12に示す前方スライド位置2Fに係止するための第1ラッチ部材41と、図14に示す後方スライド位置2Bに係止するための第2ラッチ部材42と、図13に示す中間スライド位置2Mに係止するための第3ラッチ部材43とを設けて本発明のラッチ装置を構成するとともに、天板2が前方スライド位置2F及び後方スライド位置2Bにある図7及び図8の状態では当該天板2の前縁側の上下動を規制する係合構造51、52を採用し、さらに天板2が前方スライド位置2F及び後方スライド位置

50

2 Bにある図9及び図10の状態では、当該天板2の後縁側の上下動を規制する規制部61、62を設けている。

【0019】

ラッチ部材41、42、43は、天板2の奥行き方向に沿った3箇所に設けられ、それらのラッチ部材41、42、43を所定の移動位置で中間横架材12の外面に往路及び復路にて段階的に当接させ、天板2を所定の移動位置に係止するものである。

【0020】

これらのラッチ部材41、42、43は、図11～図17に示すように、支軸m回りに取り付けられた天秤状のもので、中間横架材12が移動方向に対して垂直な第1当接面である立面12a及び移動方向に対して平行な第2当接面である上面12bを有する概略角パイプ状をなすことに関連づけて、バネ44cにより弾性付勢した通常姿勢において前記立面12aに対面可能な立面4a及び前記上面12bに対面可能な下向面4bを有するとともに、立面4aの下方に中間横架材12の立面12aの中間高さから当該立面12aよりも若干高い位置まで傾斜する傾斜面4cを設けている。そして、例えば天板2を前方へスライド移動させた場合、ラッチ部材41が傾斜面4cに沿って支軸m回りに天秤動作を行いながら中間横架材12の上面12bを乗り越えた位置で、図12(a)に矢印で示すようにラッチ部材41、42、43が逆方向の天秤動作を通じて通常姿勢に復帰することにより、ラッチ部材41の立面4a及び下向き面4bを中間横架材12の立面12a及び上面12bに当接ないし近接させるようにしている。そして、その後に天板2を押し込む方向の移動力を受けた場合に、それら立面4aと立面12aとの間、及び下向き面4bと上面12bとの当接力が増す方向にラッチ部材41が中間横架材12に対して突っ張り、天板2の前方スライド位置2Fにおけるラッチ状態を保持するようにしている。

【0021】

また、この位置から後述するラッチ解除用レバー45を操作してラッチ部材41、42、43を同図(b)のように中間横架材12と干渉しない水平姿勢にした後、天板2を後方へスライド移動させると、ラッチ部材41の傾斜面4cが中間横架材12の上面12bを乗り越えた位置で、ラッチ部材41、42、43が天秤動作を通じて通常姿勢に復帰し、引き続くスライド動作によって図13に示すように立面4a及び下向き面4bを中間横架材12の立面12a及び上面12bに当接ないし近接させるようにしている。したがって、その後に天板2を引き続き押し込む方向の移動力を受けても、それら立面4aと立面12aとの間、及び下向き面4bと上面12bとの当接力が増す方向にラッチ部材43が中間横架材12に対して突っ張るため、天板2の中間スライド位置2Mにおけるラッチ状態を保持するようにしている。

【0022】

さらにまた、この位置から後述するラッチ解除用レバー45を操作してラッチ部材41、42、43を同図(b)のように水平姿勢にした後、天板2を後方へスライド移動させると、ラッチ部材42、43の傾斜面4cが中間横架材12の上面12bを乗り越えた位置で、ラッチ部材41、42、43が天秤動作を通じて図14(a)の通常姿勢に復帰して、立面4a及び下向き面4bを中間横架材12の立面12a及び上面12bに当接ないし近接させるようにしている。したがって、その後に天板2を前方に引き出す方向の移動力を受けても、それら立面4aと立面12aとの間、及び下向き面4bと上面12bとの当接力が増す方向にラッチ部材42が中間横架材12に対して突っ張るため、天板2の後方スライド位置2Bにおけるラッチ状態を保持するようにしている。

【0023】

ところで、これらのラッチ部材41、42、43は、図11～図17に示すように、ラッチハウジング40xに収容されている。このラッチハウジング40xは、前記天板支持体1と前記天板2との間に存する10mm程度の隙間に配置される薄板状のもので、複数箇所に貫通孔40a、40b、40cを有しており、これらの貫通孔40a、40b、40cに収容するようにしてその厚み内に、天板2を横架材12に係止させる場合のみ厚み内から突出する前記ラッチ部材41、42、43と、次に述べるラッチ解除用レバー45

のレバー操作力を前記ラッチ部材に伝達する伝達部材 4 4 とを組み込んでいるものである。貫通孔 4 0 c は一部が有底溝になっている。また、ラッチ解除用レバー 4 5 は、前記ラッチハウジング 4 0 x とは分離して構成されたラッチハウジング 4 0 y に組み込まれている。

【0024】

ラッチ解除用レバー 4 5 は、鉛直軸 n 回りに回転可能に取り付けたもので、天板 2 の前縁部下面における左右 2 箇所位置づけた操作縁 4 5 a、4 5 b の何れを操作しても、伝達部材 4 4 を介してラッチ部材 4 1、4 2、4 3 を回転させて横架材 1 2 との係止状態を解除し得るようにしたものである。伝達部材 4 4 は、前記ラッチ解除用レバー 4 5 の回転操作に伴い奥行き方向に前後移動するロッド 4 4 a と、このロッド 4 4 a が後方に移動することによってラッチ部材 4 1、4 3 を支軸 m 回りにすくい上げる作動体 4 4 b と、ロッド 4 4 a を前方に付勢してラッチ解除用レバー 4 5 とともにこれらを通常位置にオフセットするバネ 4 4 c とを具備してなる。図 1 5 (a) → (b) は作動体 4 4 b が後方に移動した際にラッチ部材 4 1、4 3 に一体的に設けたテーパー状の受力部 4 1 a、4 3 a に潜り込んでラッチ部材 4 1、4 3 を支軸 m 回りにすくい上げる様子を示している。なお、ラッチ部材 4 2 は、先端 4 2 b をラッチ部材 4 3 の先端 4 3 b に押し下げられる位置に係わり合わせて支軸 m 回りに取り付けられているもので、ラッチ部材 4 3 とともに同期作動するように構成されている。

【0025】

次に、天板 2 の前縁側の上下動を規制する係合構造 5 1、5 2 について説明する。図 6 ~ 図 8 に示すように、前側の可動ローラ 2 0 の支軸に取り付けてある第 1 可動ブラケット 2 1 には前方に向かって L 形に突出する第 1 係合部 5 1 a が、また天板 2 の前縁側の下面に取り付けている前記ラッチ解除用レバー 4 5 のレバーハウジング 4 0 y には後方に向かって L 形をなす第 2 係合部 5 2 a がそれぞれ設けてあり、対する側部架材 1 4 には、天板 2 の前方スライド位置 2 F で前記第 1 係合部 5 1 a が到来する部位に前記固定ローラ 2 3 のハウジング 2 3 h を利用して切欠状の第 1 被係合部 5 1 b が、また天板 2 の後方スライド位置 2 B で前記第 2 係合部 5 2 a が到来する部位に同じく前記固定ローラ 2 3 のハウジング 2 3 h を利用してスリット状の第 2 被係合部 5 2 b が、それぞれ設けてある。そして、天板 2 を後方スライド位置 2 B から前方スライド位置 2 F まで移動させた際に、図 7 に示すように天板 2 側に設けた第 1 係合部 5 1 a を天板支持体 1 の前縁部に設けた第 1 被係合部 5 1 b に係合させて天板の前縁側の上下動を規制する係合構造 5 1 を構成し、天板 2 を前方スライド位置 2 F から後方スライド位置 2 B まで移動させた際に、図 8 に示すように天板 2 側に設けた第 2 係合部 5 2 a を天板支持体 1 の前縁部に設けた第 2 被係合部 5 2 b に係合させて天板 2 の前縁側の上下動を規制する係合構造 5 2 を構成するようにしている。勿論、第 1 被係合部 5 1 b もスリット状のものにして第 1 係合部 5 1 a を係合させた際に天板 2 の前縁側の上下動を規制するようにしてもよい。

【0026】

さらに、天板 2 の後縁側の上下動を規制する規制部 6 1、6 2 について説明する。図 5 及び図 1 0 に示すように、規制部 6 2 は、後部横架材 1 1 の水平溝 f が後方スライド位置 2 B にある天板 2 の後縁部近傍の下面に位置して前方に連続開口することに鑑みて、天板 2 の後縁部側の下面に水平軸を介してローラ 2 5 を取り付け、天板 2 の移動に伴ってこのローラ 2 5 を水平溝 f に係合させるようにしている。さらに、図 5 及び図 9 に示すように、規制部 6 1 は、中間横架材 1 2 の水平溝 f が前方スライド位置 2 F にある天板 2 の後縁部近傍の下面に位置して後方に連続開口することに鑑みて、天板 2 の後縁部側の下面に水平軸を介して前記ローラ 2 5 と同様のローラ 2 6 を取り付け、このローラ 2 6 を水平溝 f に係合させるようにしている。

【0027】

一方、引出し 3 は、図 4、図 5 及び図 9 等示すように、引き手部 3 1、底板 3 2、左右の側板 3 3 及び背板 3 4 を具備し、幅寸法が天板の幅寸法に略等しく、上下寸法が 3 0 mm 前後に設定された扁平箱状のもので、奥行き寸法が押し込んだ状態で左右の脚部 1 a

10

20

30

40

50

の前半部間に位置する扁平箱状をなす。この天板付き家具を構成する引出し 3 の奥行き寸法は天板 2 の奥行き寸法の略半分程度に設定しており、当該引出し 3 の後方に、左右の脚部 1 a の後半部間に位置づけて固定トレー 7 を設けている。引出し 3 は、側部架材 1 4 の側方に連続開口する水平溝 f に取り付けられた前記第 1 ブラケット 2 3 h と、中間横架材 1 2 の前方において側部架材 1 4 の水平溝 f に取り付けられた第 2 ブラケット 3 0 とに亘って、前記第 1 可動ブラケット 2 1 と干渉しないようにレール部材であるサスペンションレール 3 0 a を取り付け、このサスペンションレール 3 0 a に側板 3 3 を前後スライド可能に支持させたものである。

【0028】

なお、本実施形態では、前記第 1 ブラケット 2 3 h は前記固定ローラ 2 3 のハウジング 2 3 h と共通のもので、それらの機能を備え併せている。

10

【0029】

一方、固定トレー 7 は、前板 7 1、底板 7 2 及び後板 7 3 を具備するもので、前板 7 1 及び後板 7 3 をそれぞれ中間横架材 1 2 及び後部横架材 1 1 に水平溝 f を利用して天板 2 のスライド動作を妨げないように取り付けられている。すなわち、天板 2 は固定トレー 7 を上方に開放する図 2 の前方スライド位置 2 F とその上方を閉止する図 1 の後方スライド位置 2 B との間でスライド移動可能であり、これに対して引出し 3 は、固定トレー 7 を閉止している天板 2 に対して前方に突出して上方に開放される図 3 の引き出し位置 3 F と天板 2 に閉止される図 1 の押し込み位置 3 B との間でスライド移動可能とされている。図 6 において符号 7 0 で示すものは固定トレー 7 の取り付け用ブラケットであり、中間横架材 1 2

20

【0030】

このように、この天板付き家具は天板 2 及び引出し 3 が極めて薄肉である点に特徴を有し、従来の天板付き家具とは大きくその外観を異にするものである。

【0031】

なお、前記可動ローラ 2 0 は天板支持体 1 を組み付ける前段階において端部が開放された状態でフレーム部材 F 1 内に挿入するか、或いは適宜部位にキャップ等で閉止可能な切欠を設けてそこから挿入すればよい。また、前記ブラケット 2 3 h、3 0、7 0 等のレール溝 f への取り付けは、図 1 8 に示すような固定子たるナット部材 8 を利用することが便利である。このナット部材 8 は、フレーム部材 F 1 の溝幅 f x よりも幅寸法 w が小さくまたフレーム部材 F 1 の上下方向の内法寸法 F X に略等しい丈 h を有するもので、このナット部材 8 は水平溝 f から内部に挿入した後に自然に略 90° 回転するような偏心ウェイト構造をなしている。このようなナット部材 8 に対して、ブラケット 2 3 h、3 0、7 0 に形成した一对の凸部 8 0 をナット部材 8 の両縁 8 a を抱くように差し込み、その状態でブラケット 2 3 h、3 0、7 0 を貫通させたねじ 8 1 をナット部材 8 に設けたねじ孔 8 b に締着することによって、ブラケット 2 3 h、3 0、7 0 をフレーム部材 F 1 に水平溝 f を利用して固定し得るようにしている。

30

【0032】

さらに、この実施形態は、天板 2 及び引出し 3 を支持体 1 に独立してスライド移動可能に支持するとともに、これら天板 2 及び引出し 3 を支持体に対して同時に施開錠するロック機構 9 を設けている。

40

【0033】

このロック機構 9 は、図 4、図 5 並びに図 1 9～図 2 1 に示すように、引き出し 3 に設けられて前記スライド方向と直交する方向に突没可能なロック杆 9 1 と、天板 2 及び支持体 1 にブラケット 9 2、9 3 を利用して設けられる挿通窓 9 2 a、9 3 a とを具備し、ロック杆 9 1 を両挿通窓 9 2 a、9 3 a に対し挿脱することによって、天板 2 及び引出し 3 を支持体 1 に対して同時に施開錠し得るようにしたものである。

【0034】

より具体的には、このロック機構 9 のロック杆 9 1 はアクチュエータ 9 4 によって電磁的に駆動されるもので、ID カード等の記録媒体からリーダー 9 5 を介して利用者識別子を

50

読み取り、マイクロコンピュータユニット９６において認証がとれた場合のみロック機構９の操作を許可するものである。マイクロコンピュータユニット９６は、ＣＰＵ９６ａ、内部記憶装置９６ｂ、外部記憶装置９６ｃ及び入出力装置９６ｄを備えた通常のもので、内部記憶装置９６ｂ等には認証用のプログラムが格納され、また施開錠の権限を有する者に与えられる利用者識別子を登録する後記の利用者識別子登録部として機能している。そして、ＣＰＵ９６ａがプログラムを逐次読み込んで実行することにより、ロック杆９１を駆動するアクチュエータ９４に作動命令をなす施開錠部９ａと、施開錠の権限を有する者に与えられる利用者識別子を登録した利用者識別子登録部９ｂと、施開錠の権限を有することを証する識別子記録媒体から利用者識別子を読み取る読取部９ｃと、読み取った利用者識別子が前記利用者識別子登録部９ｂに登録してある利用者識別子と合致するか否かを判断する判断部９ｄと、この判断部９ｄにおいて合致していると判断した場合に操作受付部９ｅで受け付けた操作入力に対して施開錠部９ａから作動命令を出力するようにしている。

10

【００３５】

以上のようにして、本実施形態の天板付き家具に適用されるラッチ装置は、構造体である天板支持体１に移動体である天板２をスライド可能に支持させてなるものにおいて、前記天板支持体１と前記天板２との間に存する隙間にラッチハウジング４０ｘ、４０ｙを介在させ、このラッチハウジング４０ｘ、４０ｙに、当該ラッチハウジング４０ｘ、４０ｙの厚み内に収容され前記天板２を前記天板支持体１に係止させる場合のみ厚み内から突出するラッチ部材４１、４２、４３と、前記ラッチハウジング４０ｘ、４０ｙの厚み内に収容され且つその厚み内で操作可能なラッチ解除用レバー４５と、前記ラッチハウジング４０ｘ、４０ｙの厚み内に収容されて前記ラッチ解除用レバー４５のレバー操作力を前記ラッチ部材４１、４２、４３に伝達する伝達部材４４とを組み込んだものである。

20

【００３６】

このようにすれば、構造体である天板支持体１と移動体である天板２との間の狭小な隙間にラッチハウジング４０ｘを挿入するだけで本発明のラッチ装置を構成できるため、僅かな組み込みスペースさえあれば簡易に採用でき、天板２の下面に掘り込み等の収納スペースを形成する加工も不要にすることができる。

【００３７】

また、ラッチハウジング４０ｘ、４０ｙが薄板状のものであり、そのラッチハウジング４０ｘ、４０ｙの厚み方向に設けた貫通孔４０ａ、４０ｂ、４０ｃに少なくともラッチ部材４１、４２、４３を収容しているため、ラッチハウジング４０ｘの肉厚を最大限に活用してラッチ部材４１、４２、４３の組み込みを行うことができ、ラッチハウジング４０ｘの厚肉化を有効に回避することが可能となる。

30

【００３８】

さらに、移動体である天板２が水平面内をスライド移動するものであり、ラッチ解除用レバー４５が水平面内をスライド動作若しくは旋回動作するものであるため、ラッチ解除用レバーが水平軸回りに回転若しくは旋回するものを採用する場合に比べて、薄肉化の疎外要因を有効に排除した構成とすることができる。

【００３９】

また、ラッチハウジング４０ｘが移動体である天板２に固定され、ラッチ部材４１、４２、４３が構造体である天板支持体１の外面に当接することによって移動体である天板２に係止するものであるため、移動体である天板２側にラッチハウジング４０ｘ、４０ｙを取り付けるだけで構成でき、構造体である天板支持体１側に凹凸係合等のための別段の加工を施すことを不要にすることができる。

40

【００４０】

以上、本発明の一実施形態について説明したが、各部の具体的構成は、上述した実施形態のみに限定されるものではない。

【００４１】

例えば、ラッチハウジング４０ｘ、４０ｙは一体的に形成したものであってもよい。ま

50

た、上述した実施形態では、ラッチ装置を好適に適用するために、移動体である天板 2 が水平面内をスライド移動するものであり、ラッチ解除用レバー 4 5 が水平面内をスライド動作若しくは旋回動作するものであったが、それ以外の手段として、移動体が鉛直面内をスライド移動するものであり、ラッチ解除用レバーが鉛直面内をスライド動作若しくは旋回動作するものであることが望ましい。このようにすれば、引き戸が収納家具本体に対して移動する収納家具等に好適に適用することができる。

【0042】

その他の構成も、本発明の趣旨を逸脱しない範囲で種々変形が可能である。

【図面の簡単な説明】

【0043】

10

【図 1】本発明の一実施形態に係る天板付き家具を天板が後方スライド位置にある状態で示す斜視図。

【図 2】同実施形態の天板付き家具を天板が前方スライド位置にある状態で示す斜視図。

【図 3】同実施形態の天板付き家具を引出しを引き出した状態で示す斜視図。

【図 4】同実施形態の天板付き家具を天板を透視した状態で示す斜視図。

【図 5】図 4 の分解斜視図。

【図 6】図 5 の要部拡大図。

【図 7】同実施形態において天板が前方スライド位置にある状態の天板付き家具を側部架材の近傍で切断した部分断面図。

【図 8】同実施形態において天板が後方スライド位置にある状態の天板付き家具を側部架材の近傍で切断した部分断面図。

20

【図 9】同実施形態において天板が前方スライド位置にある状態の天板付き家具を幅方向略中央部分で切断した部分断面図。

【図 10】同実施形態において天板が後方スライド位置にある状態の天板付き家具を幅方向略中央部分で切断した部分断面図。

【図 11】同実施形態のラッチ装置を示す平面図。

【図 12】同実施形態のラッチ装置が天板を前方スライド位置に係止する際の作用説明図。

【図 13】同実施形態のラッチ装置が天板を中間スライド位置に係止する際の作用説明図。

30

【図 14】同実施形態のラッチ装置が天板を後方スライド位置に係止する際の作用説明図。

【図 15】同実施形態のラッチ装置をラッチ解除する際の作用説明図。

【図 16】同実施形態のラッチ装置を示す分解斜視図。

【図 17】図 16 に対応した組立斜視図。

【図 18】同実施形態におけるブラケットの取付構造を示す図。

【図 19】同実施形態のロック機構を示す図。

【図 20】同実施形態のロック機構を示す図。

【図 21】同実施形態のロック機構を示す図。

【符号の説明】

40

【0044】

1 … 構造体（天板支持体）

2 … 移動体（天板）

40 a、40 b、40 c … 貫通孔

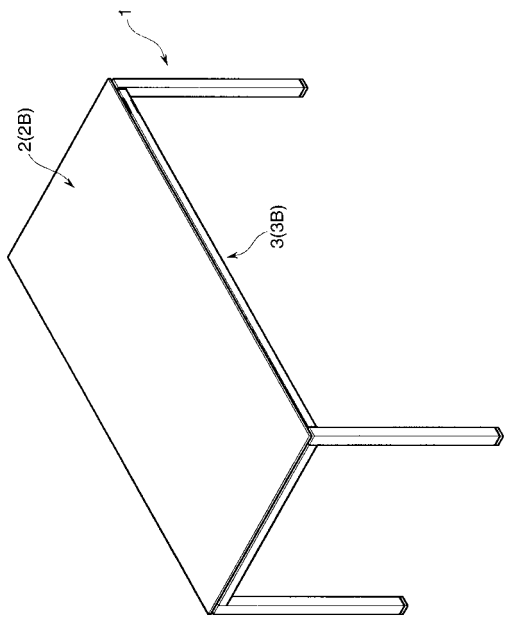
40 x … ラッチハウジング

41、42、43 … ラッチ部材

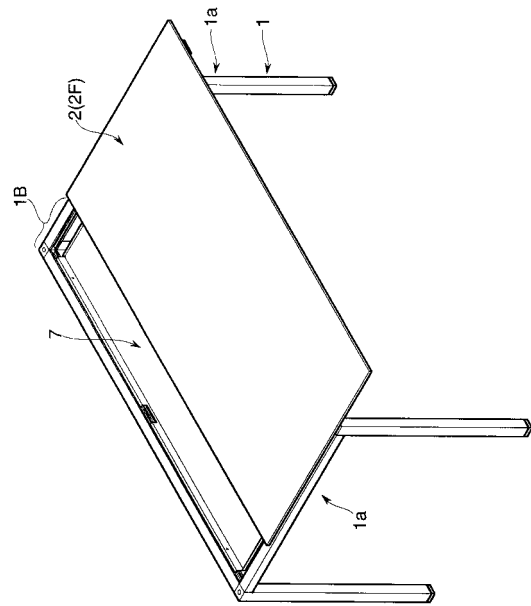
44 … 伝達部材

45 … ラッチ解除用レバー

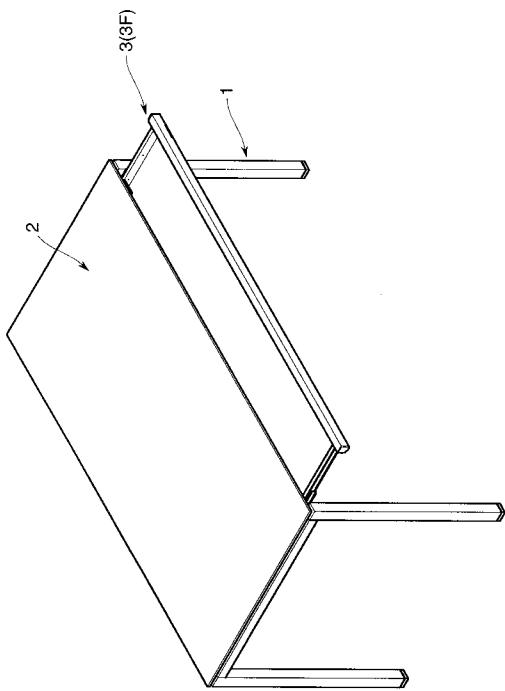
【図 1】



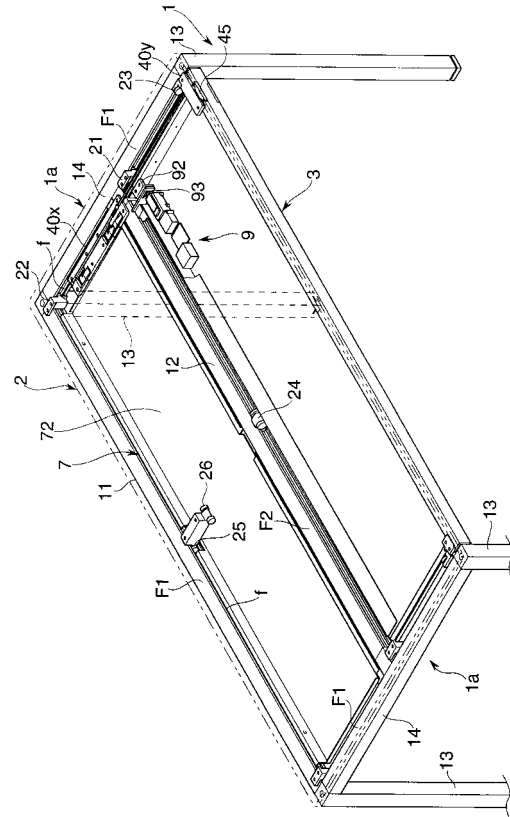
【図 2】



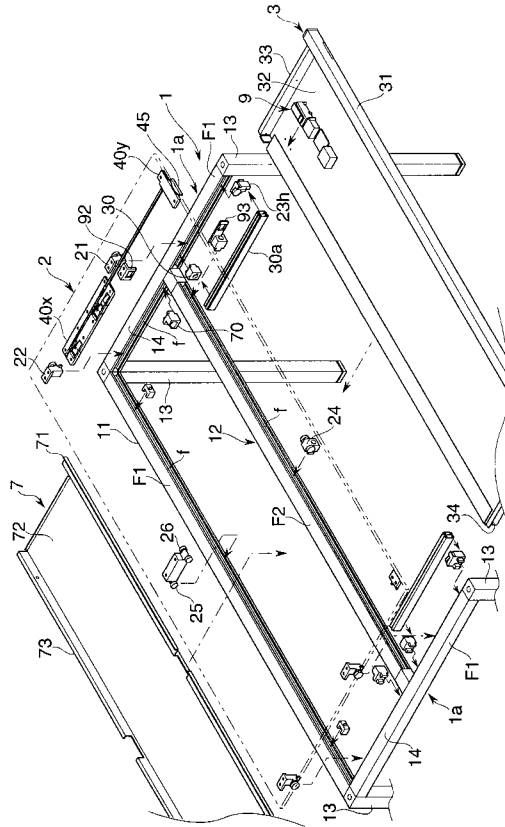
【図 3】



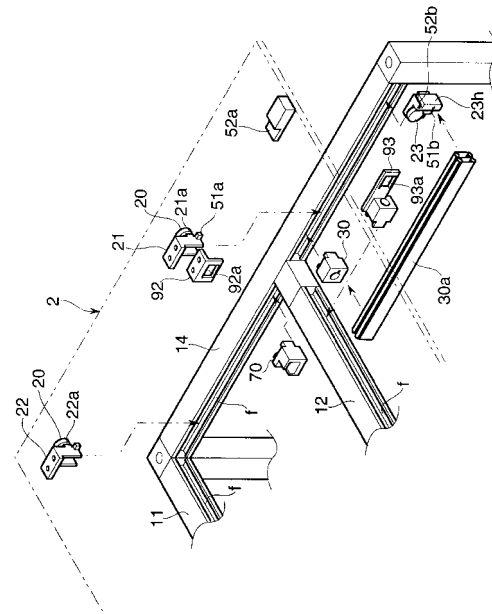
【図 4】



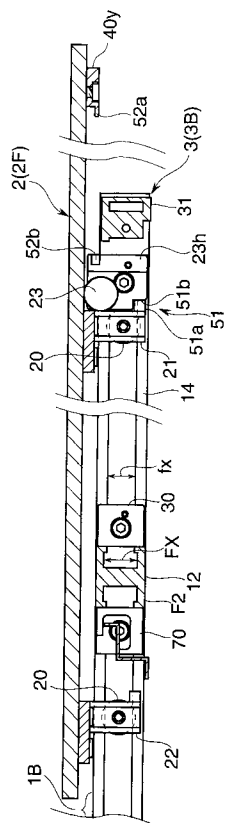
【図 5】



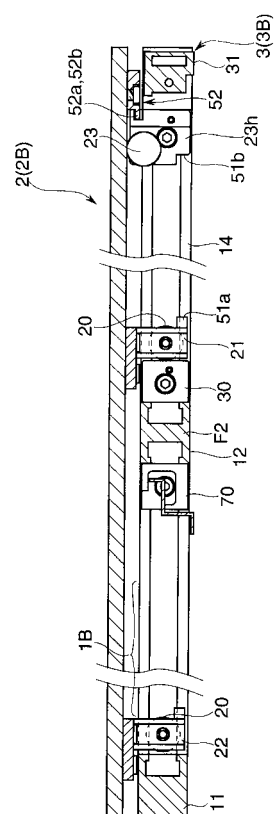
【図 6】



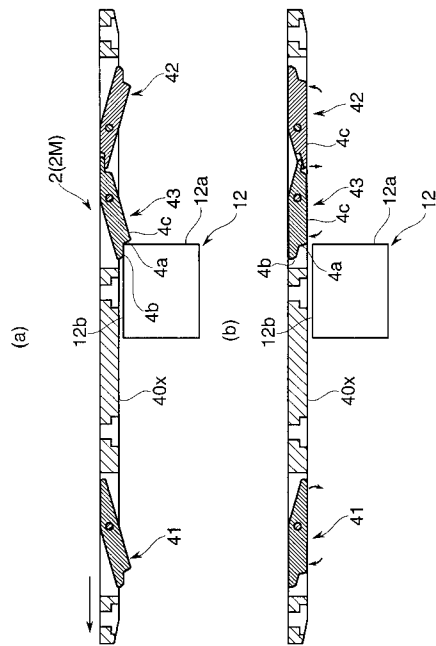
【図 7】



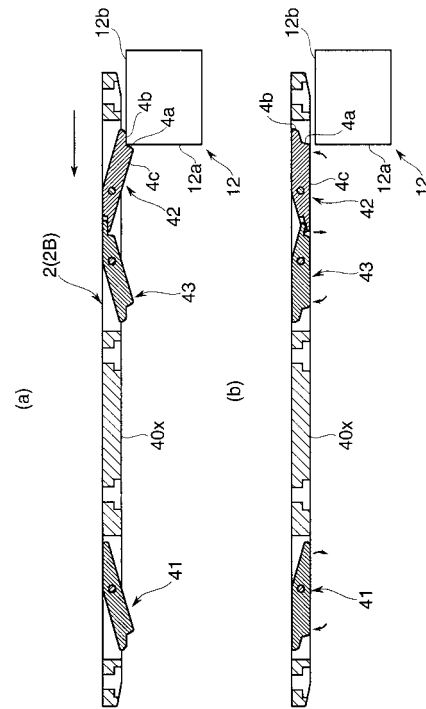
【図 8】



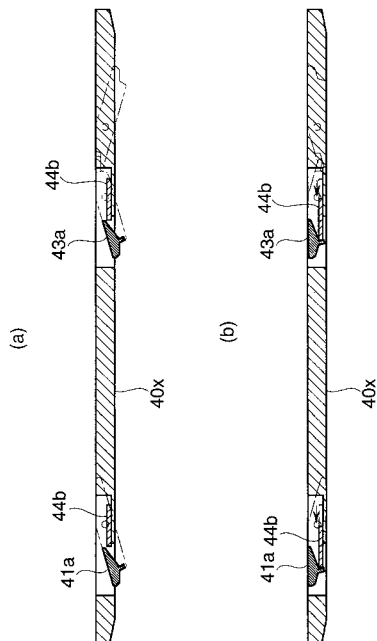
【図 1 3】



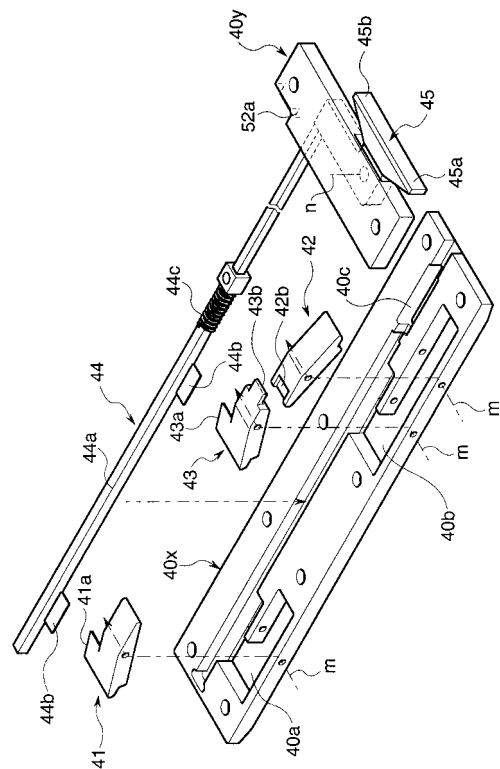
【図 14】



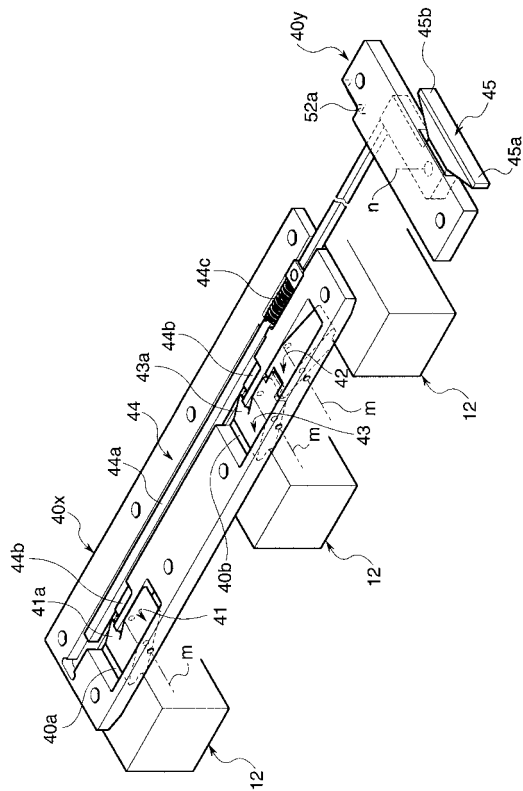
【図 15】



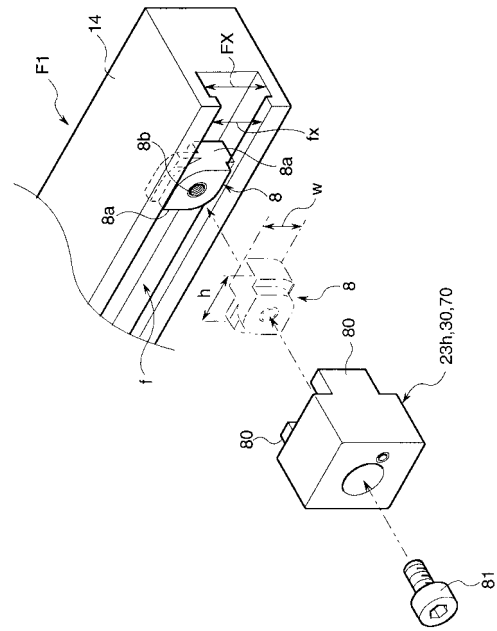
【図 1 6】



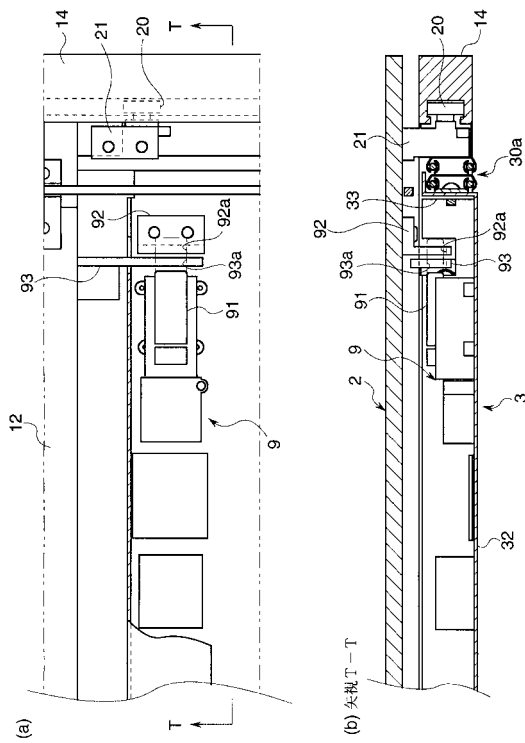
【図 17】



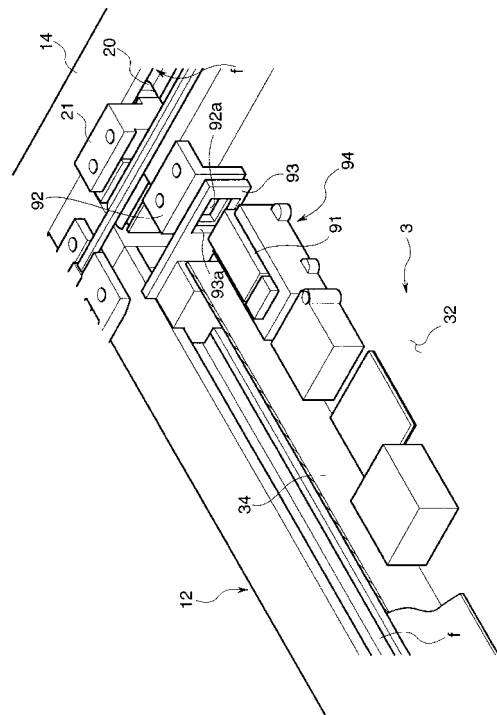
【図 18】



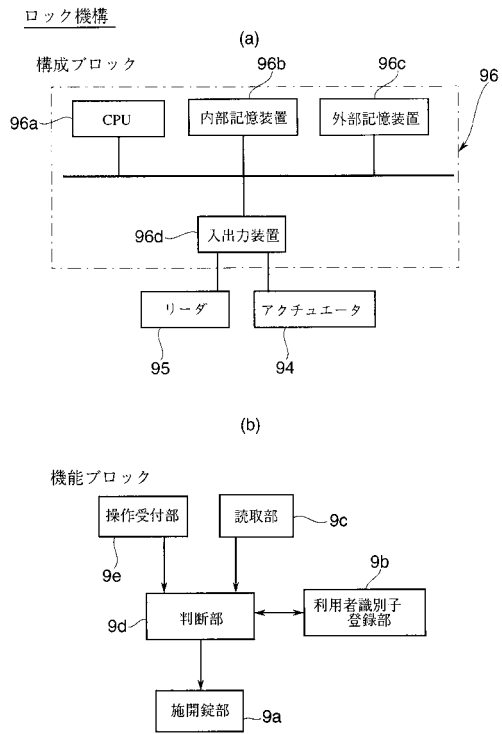
【図 19】



【図 20】



【図 2 1】



フロントページの続き

(56)参考文献 特開平10-184135 (JP, A)
特開平04-008306 (JP, A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

E05B 65/44

E05B 65/02

E05C 3/22

A47B 1/00-41/06

A47B 88/00